

道 徳 学 習 指 導 案

江田島市立大古小学校
教諭 杉井 友子

1 日 時 平成 28 年 6 月 30 日(木) 第 3 校時

2 学 年 第 3 学年 18 名

3 主題名 いろいろな考えを大切に 【B 相互理解, 寛容】

4 ねらい お父さんの言葉を聞いて、かずきが思ったことを考えることを通して、自分の考えや意見を伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にしようとする意欲を育てる。

5 資料名 「一年生との交流会」【出典：「4 年生のどうとく」文溪堂】

6 主題設定の理由

本主題は、内容項目の B「主として人との関わりに関すること」の(10)「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。」に当たる。自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分とは異なる意見や立場も広い心で受け止めて相手への理解を深めることは、自らを高めていくことができるとともに、互いを尊重し、広がりや深まりのある人間関係を築くためにも欠かせないことである。しかし、私たちは、自分の立場を守るため、つい他人の失敗や過ちを一方的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど、自己本位に陥りやすい弱さをもっている。望ましい人間関係を構築するためには、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分と異なる意見について、その背景にあるものは何かを考え、傾聴することができるようにすることが求められる。相手の言葉の裏側にある思いを知り、相手への理解を深め、自分も更に相手からの理解が得られるように思いを伝える相互理解の大切さに気付かせることが重要であると考え、本主題を設定した。

<略>

本資料は、かずきとそうたが、学校からの帰り道に、一年生との交流会で何をすればよいか話し合ったところ、意見が対立し、けんか別れしてしまうという内容である。自分の意見の理由を伝えたり、相手の意見の理由を聞いたりしたのかという父親の言葉を聞いて考え込むかずきの姿から、相手の言葉の裏側にある思いを知り、相手への理解を深め、自分も相手からの理解が更に得られるように思いを伝える相互理解の大切さを実感できる資料である。

指導に当たっては、以下の 2 点に留意して進めていきたい。

1 点目は、展開前半で役割演技を取り入れることである。かずきとそうたのやりとりを通して、自分の考えが相手に受け止めてもらえなかった時の二人の気持ちに共感させる。

2 点目は、展開で対話を取り入れることである。まず、展開前半でお父さんの言葉を聞いたかずきが、そうたの考えをしっかりと聞かずに怒ってしまったことを反省し、これからどうしようと思っているかについて他者との対話を行い、自分と異なる考えを大切にすることのよさについても考えを深められるようにする。さらに、展開後半で、これから、相手の考えと自分の考えが異なる時にどうするかについて自己内対話を行い、実践化への意欲をもたせ、自分の考えだけでなく、いろいろな考えを大切にしようとすることができるようにする。

7 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き【◎中心発問】	指導上の留意点
導入	1 自分たちの経験を想起する。	○友だちと考えの違いから言い合いになったことはありますか。どんなことで言い合いになりましたか。 ・昼休憩に何をして遊ぶかで言い合いになった。 ・掃除時間に誰がゴミ捨てに行くかで言い合いになった。	○児童の具体的な経験を想起させる。
展開	2 資料「一年生との交流会」を聞いて話し合う。	○考えの違いから言い合いになったかずきとそうたは、どのような気持ちだったでしょう。 かずき ・何でそんなことを言うんだ。 ・気を付けてあげればできる。 そうた ・やってみないと分からない。 ・頑張れば間に合う。 ○家に帰りながら、かずきはどんな気持ちだったでしょう。 ・嫌な気持ち。 ・腹が立つ。 ・もう知らない。 ・謝った方がいいかな。	○二人の気持ちを共感的に考えることができるよう、かずきとそうたの立場に分かれてペアで役割演技をさせた上で、感じたことを発表させる。
	3 自分の生活を振り返る。	◎お父さんの言葉を聞いて、かずきは、これからどうしようと思ったでしょう。 ・明日謝って、もう一度話し合おう。 ・そうたの話を最後までしっかり聞こう。 ・そうたの考えの理由を聞こう。 ・自分の考えの理由も説明しよう。 ・これからは、自分とは違う考えも大切にしよう。 ○これから、友だちの考えと自分の考えが違う時、どうしますか。 ・自分の考えを押し通すのではなく、相手の考えもしっかり聞くようにしたい。 ・友だちと意見が合わなくても、すぐに怒らないで、相手の気持ちを考えるようにしたい。 ・自分の考えを友だちに分かってもらえるように理由を付けて話すようにしたい。	○自分の考えが受け入れてもらえず怒っているかずきの気持ちをおさえるとともに、相手のそうたも同じ気持ちであることを気付かせる。 ○かずきの思いの理由を問うことを通して、自分とは違う考えを大切にするよさについても考えさせる。 ○多様な考えを出させるために、ペアで話し合う時間をとる。
終末	4 教師の説話を聞く。	○「ちがうこと ばんざい」という詩を読みます。	○いろいろな考えを大切にすることが自分の成長につながることを感じられるようにする。

8 評価について

【評価の観点】お父さんの言葉を聞いて、かずきが思ったことを考えることを通して、自分の考えや意見を伝えるときにも相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にしようという意欲をもつことができたか。

【評価の方法】道徳の授業アンケート、ワークシート

9 板書計画

